



明倫

舞鶴市立明倫小学校

平成30年5月3日



ツバメの子育て

愛宕山の木々も新緑に輝き、夏が近づいていることを感じさせてくれます。寒暖差はありますが、活動には最適な季節です。

ツバメがよく飛ぶので校舎を見てみると、コシアカツバメが巣を作っていました。普通のツバメは民家の玄関先などに巣を作ることが多いのですが、コシアカツバメはコンクリートなどの天井につぼのような巣を作ります。ツバメより少し大きく、腰のあたりが四角形にレンガ色をしているので「腰赤ツバメ」といわれています。明倫小学校にいるコシアカツバメは、まだ巣が完成したばかりで、土がかわいていないようでした。(巣から尾羽が見えています。)



この巣の近くにはこわされた巣もあり、そこからは時々スズメが顔を出していました。コシアカツバメは自分より身体が小さいスズメに、巣を乗っ取られることもあるようです。またカラスにおそわれることもあり、巣の中のひなもカラスにおそわれる危険を感じながら生活しているようです。自然界では、いつも敵と戦いながら子育てをしているのです。

明倫小学校は町の中にあります。このように自然の生き物と触れ合う機会もあるので、生き物にも興味を持つ子どもに育ってほしいと思います。巣が完成すると卵を産み、うまくいけばひなを育てると思います。子どもといっしょに、コシアカツバメの子育てを見守りたいなと思っています。



校長 池田 弘一

歴史の重み

田辺城まつりでは様々な場面で、子どもたちが活躍する姿を見ることができました。地域の古い伝統をこのように子どもたちが引き継いでいくことはとても素晴らしいことです。参加している子どもたちは、今は何も思わないかもしれませんが、大人になったとき、いかに重要な役割を担っていたのか振り返ってくれるはずです。

学校での練習では地域の方の熱い思いを感じながら、放課後も遅くまで残って練習していました。毎日指導していただいた方々に頭が下がります。ありがとうございました。